

最大の要因はテレビの台頭でした。まず、人々は茶の間から離れなくなりました。大手劇団は、経営難に陥り、大俳優を抱えることができなくなる、地方公演を控える、等の対策をせざるを得なくなりました。

対する市民劇場も、安い入場料の維持、公演料の高騰により、苦難の時代を迎えます。

## 良質な舞台芸術を提供し続けるために

しかしながら、熱心な会員に支えられて、市民劇場は踏ん張ります。平成に入っても、文学座「出雲の阿国」太地喜和子、「好色一代男」杉村春子、江守徹。青年座「からゆきさん」西田敏行、高畑淳子。劇団民藝「クルクーツク物語」奈良岡朋子、「エマ」樫山文枝。無名塾「令嬢ジュリー」仲代達矢。

すばらしい企画を重ねて、津山市民を驚かせます。

一方、新しい体制づくりが、水面下で始まりました。より市民の文化のニーズに合った組織作りが求められたのです。音楽の面でも、1989年に成功した津山国際総合音楽祭の恒常的受け皿も果たすため、財団法人津山文化振興財団（のち平成24年に公益財団法人化）が設立されました。

25年間にわたり、良質な舞台芸術を提供し続けた津山市民劇場は、第149回例会劇団NLT「ニノチカ」黒柳徹子（平成4年6月）、第150回例会北ドイツ・フィッグル合唱団公演（平成4年7月）を最後についてその幕を下ろします。

津山市民劇場は、長年の文化功勞により、津山市文化協会（現・津山市文化連盟）の制定する「くすのき賞」を平成2年度に受賞しています。

さて、平成4年に新しくできた津山文化振興財団は、津山市民劇場のコンセプトを引き継ぎ、新たに「市民芸術劇場」としてスタートさせます。

わずか2ヵ月間の準備期間を経て、企画されたのは、オーケストラ・アンサンブル金沢演奏会。指揮者は岩城宏之。ヴァイオリン・ソロに作陽音楽大学の竹内民男が加わりました。

初年度こそ、3公演に留まりましたが、1年に5～6公演をコンスタンスに実施していきました。

内容も市民劇場時代と比べて、引けをとるものではありませんが、公演の条件は徐々に厳しくなっていました。公演企画の交渉もビジネスライクでシビアに変化していきました。

役者の皆さんは、交通機関が便利になった分、公演後の交流会を省いて「トンボ返り」というケースが主流になってきました。

さて、気を取り直して、平成の名公演を紹介しましょう。まず初期は、津山市民劇場の流れを汲む有名劇団の公演が目を引きまします。東京演劇アンサンブル「真夏の夜の夢」（1993年7月）、こまつ座「シャンハイ・ムーン」

（1993年10月）、俳優座「ママの貯金」（1994年1月）、劇団民藝「おはなはん」（1994年5月）、俳優座「あれは美しい夢だった…」（1994年11月）、俳優座「欲望という名の電車」（1998年9月）、新藤兼人「午後の遺言状」司葉子、星由里子（2001年6月）

ミュージカル公演が充実しているのが、平成の特徴です。ミュージカル「アイ・ラブ・坊ちゃん」松橋登、土居裕子（1995年2月）、「キャバレー」草刈正雄、前田美波里（1995年10月）、「プリマ・ドンナ」島田歌穂、おりも政夫（1996年8月）、「34丁目の奇跡」細川俊之、草刈正雄（1998年11月）、「楽園」劇団スイセイ（2012年11月）。

2004年からは、劇団四季のファミリーミュージカルを6演目9公演実施しています。

音楽関係でまとめると、ベルリン・フィルハーモニック・プラス・クインテット（1995年7月）ホームステッド室内オーケストラ（1997年7月、2000年4月）、NHK交響楽団（2003年9月）など。

古典芸能は、「松竹大歌舞伎」（1995年11月）、「狂言の楽しみ」野村万作、野村萬斎（1999年3月）、「歌舞伎フォーラム」尾上佳緑、松本幸太郎（1999年9月）、「国立劇場歌舞伎」澤村田之助、坂東吉弥（2003年3月）、「ザ・ベスト・オブ能・狂言」野村四郎、野村又三郎（2004年10月）、「新春茂山狂言会」茂山千五郎家（2012年1月）、「松竹大歌舞伎」尾上菊五郎、尾上松緑（2012年7月）など。

落語会は、桂枝雀（1993年3月、1997年3月）、桂米朝（1998年5月）、三遊亭小遊三（2010年11月）、十一代桂文治（2012年11月）、春風亭昇太（2013年5月）など。

このほか、「華麗なるクラシック・バレエ・ハイライト」レニングラード国立バレエ（2005年8月）、「鼓童」（2007年6月、2012年6月）、「引田天功イルージョン」（2007年7月）など。

このほか、市民芸術劇場公演、（公財）津山文化振興財団主催事業以外でも、数多くのアーティストが津山文化センターの舞台に立っています。これからもこの舞台で、新たな出会いが続いていくといいですね。



▲第9回 津山国際総合音楽祭オープニングコンサート（2014年9月14日）  
西本智実指揮、津山交響楽団、音楽祭市民合唱団、ヴォーカルアンサンブル津山